

シハヌークビル港経済特別区（S E Z）完成式典の開催

5月1日（火）、シハヌーク州において、我が国の有償資金協力を通じて建設された、シハヌークビル港経済特別区（S E Z）の完成式典が開催されました。同S E Zは、カンボジア唯一の外洋に面する国際貿易港であるシハヌークビル港に隣接した臨海経済特別区であり、また、日本の建設コンサルティング会社やゼネコンによる高水準のインフラが整備されており、同S E Zへの外国企業誘致を通じて、輸出志向型の非伝統産業が育つことが期待されます。

同式典には、大使館から黒木大使が、カンボジア側からフン・セン首相、トラム・イウテック公共事業運輸大臣他多くの閣僚に加え、約1,200人の関係者が出席しました。

式典では冒頭、トラム・イウテック大臣より、本S E Z建設に至る経緯や案件の概要、また、シハヌークビル港に対する日本の有償資金協力を通じたこれまでの支援につき説明があるとともに、「港やS E Zの整備計画、今後の開発計画は、シハヌークビル港を将来的に経済港、また、メコン地域の中心となる港へと発展させるものであり、その他の開発等を含めたシハヌーク州の継続的な発展は国内経済の基礎となるものである」旨述べました。

続いて、黒木大使から、「我が国は1996年以来シハヌークビル港の開発を支援してきている。シハヌークビル港S E Zは、港に隣接しており、またインフラの質も高いという優位性があり、製造業セクターへの積極的な海外直接投資（FDI）誘致が期待されている。特に日系企業からの投資により、カンボジアの雇用創出、産業多様化、輸出促進に貢献できることを強く望んでいる。日本のカンボジア投資は、近年急増している。4月21日に東京で開催された第4回日メコン首脳会議において、日本はメコン地域において今後3年間で6,000億円の支援を行う旨コミットした。日本はとりわけホーチミンからプノンペンを通してバンコクにつながる南部経済回廊及び本S E Zを含むシハヌークビル港の開発に重点を置いている。シハヌークビル港及び本S E Zがカンボジアの経済発展に大きな役割を果たすことを期待する。」と挨拶を行いました。

黒木大使に続き挨拶を行ったフン・セン首相は、「本日ヘリコプターで移動してきた際に、空から完成した本S E Zを見ることができたが、非常に良く整備されていた。本S E Zは港に直結しており、進出企業は円滑に事業を実施することができるであろう。日系企業1社が既にここでの操業を決めていると聞いている。ここ3年くらいにかけて多くの日系企業がカンボジアに進出してきていると感じているが、更に多くの企業が進出しこのS E Zで活動を行うことを期待している」と述べ、日本政府及び国民に対し謝意を表しました。

式典は、フン・セン首相及び黒木大使による記念パネルの除幕で始まり、各挨拶の後に関係者等へのメダルの授与が行われました。

（次頁に式典時の写真を掲載）



除幕式の様子



式典に出席するフン・セン首相と黒木大使



式典に出席するシハヌークビル港関係者



黒木大使スピーチ



会場を後にするフン・セン首相と黒木大使



式典後に施設を視察する黒木大使